ROTARY CLUB OF KANAZAWA-NORTH WEEKLY

金沢北ロータリークラブ
例会日：木曜日 12:30～13:30
例会場：卯辰山・ホワイトハウス
事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所
TEL〈0762〉63-1151
会長：山田 安隆　幹事：大村 精二
会報委員長：清水　忠

1973・11月22日　第4号

思いつくまゝ

金沢市長　岡　良一氏

金沢は町そのものが国宝的存在である。戦後復活した都市が如何に繁華であり、近代的であっても、もはや重厚な陰翳はない。

幸いにして、金沢は五世紀にわたって戦火をうけず、市民が営々として独自の文化的伝統を守り育てて来た、世界で唯一の町として、海外でも高く評価されている。

この評価をふまえて、市当局は今、シビルミニマムの構想を策定し、この誇り高き町を、より住みよい豊かな町にするための努力をしている。

しかし、それは独り行政のみの能くする所ではなく、むしろ市民の一人一人に課せられた後世への責務である。

われらの、そしてわれらの子孫の金沢のために、良識ある市民意識の高揚を期待したい。

—金沢北ＲＣ例会卓話より—

（文責 清水 忠）

かなざわ文学散歩

〝思い出〟

私の古い思い出は四高にある。この学校は町のまん中に、尾山城の森を背にして、古雅な赤煉瓦の甍をそびえ立たせていた。カラタチの生垣をめぐらせ、そのふちを用水が流れていた。

表は、昔からの金沢のメーンストリートであった広坂通りに面し、こんな市街の第一等地に位置している学校を、私は他に見たことがなかった。

四高生は町の人々から愛され、娘たちの眼をひき、私たち中学生には憧れの的であった。

〝金沢・人と町〟より　深田久弥

私の名刺

平尾　信明

大正12年北海道苫前郡羽幌町(北海道北部日本海側の一漁港)で生れ育ち旭川商業を卒業という生粋の道産子です。

当時の大東亜共栄圏建設という国策遂行のため上京し善隣高商に学び大陸雄飛を期しておりましたが、お定りの軍隊生活・航空隊特別操縦見習士官・特攻隊編入・終戦と若い生命をかけてまいりました。今考えるとこんな若い時代もあったかなと懐しく思えます。

昭和27年結婚、妻と男子２人の父として現在小橋町に居住。昭和27年大和本店食品部にて佃煮・漬物・海産物並に金沢名産食品の製造販売を始め、昭和39年大和高岡店、翌年大和富山店と販路拡張、43年本社工場を小橋町より現在の利屋町へ移転し、46年関連事業としてレストラン十字を開業、本年９月津幡スカール店内に津幡店を開店、現在に至る。

資本金１千３百万、従業員75名、年商５億５千万の小企業ですが、私なりに企業に対する誇りと責任を痛感し、立派な企業育成への夢を持っております。先輩の皆さんの御指導を……。

事業を通じての社会への奉仕がロータリー精神と理解しておりますが〝和と誠意〟が私の人生観とでも言えましょうか。現代の世情を思うと私達に何か大事なものが欠けているような気がします。この何かを求める気持をロータリー活動に生かしたいものです。

本江　他美夫

アイウエオ順に慣れていて、いつも後の方でノンビリムードの私には、ロータリーのアルファベット順は、何事も最初の方になりますので要領を得ず困惑しております。会報の会員紹介は、どのようなことを書いてよいのかわかりませんが、簡単に家業並びに家族を紹介させて頂きます。私の家は、代々醤油、味噌の醸造業を営んでおります。街の中での醸造工場は、立地条件として段々と難しくなり、合理化問題、公害問題等種々の難問が出てまいり、先づ第一歩として、昨年味噌部門を県内10社で協業組合を設立し、松任市倉部町で、敷地１万平方米、総工費約２億５千万円の工場を建設し、味噌製造を新しい機械設備と管理で研究製造しております。私は次男で関西大学経済学部卒業で、家業を継ぐ筈でなかったのですが、微生物化学の方を勉強した兄が、九州大学の教授になりましたため、醸造業をやることになり、急速な化学の進歩で非常な苦労を重ねてまいりました。この苦い経験上、息子達には微生物醗酵工学、醸造学の方を学ばせております。家族構成は、母(84才)、私(52才)、妻(46才)、長男(25才)、次男(21才)の５人家族です。私のモットーとしては、技術を生かし自己の得意とする分野を充実させ、自信ある商品として皆様に賞味して頂く製品を造ることが、職業奉仕の第一だと努めております。

私の考えるロータリー（3）

ロータリー情報委員長　　柴田　三郎

ロータリーとはなんぞや、ロータリーの目的は何か、ロータリーはどうあらねばならないか……これが〝私の考えるロータリー〟の主眼である。順序はあと先になったが、前号において私は、金沢北ＲＣの願望であり、スローガンとして試案４カ条を提唱したが、これの意味するものについて更に分析し、会員同志諸君のご理解と共感を得たいのである。

ロータリーについて、世間はもちろん、永い経験のロータリアンの中にさえ誤解があるような思いがしてならない。即ち、ロータリーは、単なる親睦を目的とする友好団体ではないということであり、また単なる修養団体でもないし、世の人々が曲解しているかも知れぬ奉仕団体でもないということであり、ひと口に表現するならば、この三つをミックスしたものと言えるのではなかろうか。

同一クラブの会員を始めとして、市内の、県内の、地区の、更に広くは全世界のロータリアンお互いが平等の立場において、親睦を深めつつ、教え訓えられ修養にいそしみ、而して世のため人のための奉仕を心掛けていこう……と、いう次第です。

従って、ロータリーの例会はもちろん、ロータリーのあらゆる会合、行事、事業などすべての運営がこの三つを支柱とするものであらねばならぬのが根本である。

即ち、ロータリーは、その理想、倫理を探求し、学び、身につけようとする人々の同志的結合体であって、楽しい中にも一本筋の通った厳しさがなければならないと思うのである。手段を選ばずガッポリもうけて、その一部を罪亡ぼしに寄付するグループの如く世の人々に受けとられては、ロータリーの大恥辱であり、ロータリアンの自省自戒が求められるゆえんである。

一人一人のロータリアンが、その職業に身をささげ、浄化し、職業を通じてロータリーの理想、倫理を実践する努力を積むことこそロータリアンの光輝ある使命である。

ところで、わが金沢北ＲＣの眼目（目玉）として、四つの願いを提唱して前述の三つの支柱の土台としたいと願うのである。

その一つ**〝親身の友情深めよう〟**とは、世にありきたりの友達づき合いではなく、面従腹背の友交でなく、まさに親身の友情であらねばならないのである。

次の**〝助けあい学びあおう〟**とは、北ＲＣの同志は、ともに喜び、共に悲しみも分けあう助け合いであり、而して、老いも若きも互いに学び合い、切嵯琢磨しつつ前進しましょうというのである。

次の**〝いつも若さと自戒を〟**とは、常に潑剌たる若さを保持し、積極的活動力を育成しつつ自戒を忘れないことであり、この自戒こそはロータリーの根本をなすものである。

最後の**〝最少の会員、最大の活動〟**は、当クラブ永遠の悲願として欲しいのである。いづれ稿を改めて詳述したいが、要は徒らに会員をふやす勿れ、大世帯になれば、クラブはやがて半身不随となり、活動力は減退し、友交は欠け、味気ないクラブとなるのは必至であり、多くの先例が実証している。

クラブはあくまでも、われ等のものであることを失ってはならないし、最少の会員・最大の活動を金沢北ＲＣの光輝ある誇りとしたいと希うのである。

第６回例会

◆11月８日㈭晴　ホワイトハウス　12:30～13:30

１．卓　　話　“思いつくまま”金沢市長 岡 良一氏

２．出　　欠　出席28名、欠席10名、出席率73.7%
先週補正率92.1%

３．来 訪 者　金沢ＲＣ　徳田保久君
金沢東ＲＣ　紙谷栄次郎君
新名健吉君、野村清君
池内英夫君
金沢西ＲＣ　進藤太一郎君
金沢南ＲＣ　大島宗吉君
宮野四郎君

４．幹事報告　金沢ＲＣ富田隆氏11月４日死去さる。

５．今日のニュース
国連大学日本設置決まる。

第７回例会

◆11月15日㈭晴　金沢商工会議所ホール
12:30～17:00

１．出　　欠　出席33名、欠席５名、86.8%
先週補正率94.7%

２．インターシティ・ゼネラル・フォーラム
（詳細下記）

３．フォーラムリーダー
常盤井堯祺パストガバナー

４．ホ ス ト　金沢ＲＣ

５．参　　加　金沢、金沢東、金沢西、金沢南、
金沢北、河北各ＲＣ　126名

６．オブザーバー　能美、七尾、輪島各ＲＣ　7名

７．今日のニュース
○来日のキッシンジャー米国務長官に対し、田中首相「石油危機」で協力要請。
○石川県経済界の重鎮直山与二氏死去。

インターシティ・ゼネラル フォーラム開催さる

◆11月15日開かれた勉強会では、クラブ奉仕活動の中、次のテーマが具体的に討議された。

(1)会員増強のあり方

○シニアアクティブ会員の増加と会員拡大強化のあり方。
○ライオンズクラブ会員の転向は認められるか。
○新会員選定の具体的注意事項。
○会員増強とは量的拡大か質的向上か。

(2)親睦と出席について

○親睦の正しい方向。
○例会卓話者の登録制。
○例会はホームクラブの出席を第１義とすべきでないか。
○魅力ある例会の具体例。

◆安田ガバナーの講評では、次の言葉が印象にのこった。
○例会や家族参加の親睦も勿論有意義であろう。しかし、一人一人が汗を流し、奉仕活動を通じて相互の親交を深めるところにこそロータリーの親睦の極致がある。
○昨日という日は消され、明日という日は私には来ないかも知れない。とすれば、今日という日こそ行動のときである筈である。けだし、“A Time for Action”の真意はここにある。

◆当クラブメンバーは、出席率よく、中途退場者もなく、最後まで熱心に勉強していた。この灯を何時までも点していきたいと思う。

初の懇親会〝山の尾〟で開催さる

当クラブ最初の懇親会が、親睦委員会主催の下、11月６日夜、卯辰山の山裾“山の尾”で開かれた。啾々たる秋雨にかかわらず、28名が参加し、飲む程に酔う程に、ロータリーを語り、人生を語り、秋の夜長、大いに親交を深めた。

例会卓話案内

11月22日	千叟忌お茶の話	勝田鉄心師
11月29日	郷土の芸術	高橋　勇氏
12月６日	成道会	河合智海師